

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:41.

視覚を喪失した患者への看護師の関わりとその背景にあった思い

横山 美香、森谷 あゆみ

## 視覚を喪失した患者への看護師の関わりとその背景にあった思い

旭川医科大学病院 8階東ナースステーション ○横山 美香、森谷あゆみ

### 【目的】

外傷性眼球破裂により視覚を喪失したB氏との関わりと、看護師が抱いた思いを明らかにする。

### 【方法】

A病院眼科病棟に勤務し事例に関わった看護師19名に面談(半構造化インタビュー)を実施し、逐語録を作成した。データからサブカテゴリ、カテゴリ化し、分析した。本研究は、研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得た。

### 【結果】

分析の結果、得られたカテゴリを【 】で示す。看護師は、否定せずありのままに受け止めるなど【傾聴することを大切にしていた】。しかし、何度も同じことを繰り返すB氏に対し、希望を否定できないなど【返

答・声かけに悩む】ことで、声をかけられない状況が生じていた。また、日常業務の中で【時間をかけて話を聞けなかった】場面もあった。看護師には、視覚の喪失を受け入れることは簡単ではないなど【障害を受け入れるには時間がかかる】という思いと、【現状を受け入れてほしい】という、相反する思いが生じていた。

### 【考察】

B氏は視覚の喪失という悲嘆過程にあり、看護師には悲嘆作業を十分にやり遂げるようサポートすることが必要であった。看護師は、自分の主観や価値観を押しつけるような聴き方ではなく、患者をありのままに受け入れ、患者自身が喪失により何が失われ、何が問題なのかを表現できる環境づくりをすることが、真の傾聴と考えられた。